



⑤

- ①鷹巣種子島踊り保存会の種子島踊り(Aコープあづま店前)
- ②加世堂集落の手踊り(潟集落若宮神社)
- ③馬込集落の手踊り(潟集落若宮神社)
- ④薄井集落の手踊り(Aコープあづま店前)
- ⑤城川内郷土芸能保存会の鉦踊り(城川内集落若宮神社)
- ⑥山門野三公連の手踊り(山門野下集落南方神社)

本町の伝統行事である御八日踊りが8月8日、町内の神社に奉納されました。

この日は、各神社で神事が執り行われた後、各地区に伝承されている鉦踊りや棒踊り、種子島踊り、かさ踊り、手踊りなど多彩な舞が披露され、鐘や太鼓の音が、町内一円に響き渡りました。

山門野にある南方神社では、各地区の踊り子たちが次から次へと、汗だくになりながら勇壮な舞を披露し、観覧に訪れた地区民から、たくさん拍手が送られていました。また、潟の若宮神社では神事後、昭和53年から伝承されてきた汐見小学校の児童11人による樽太鼓で幕が開けられ、猛暑のなか一生懸命太鼓を叩いていました。

由来

御八日踊りは、1565年3月、野田領主島津忠兼が、城川内の堂崎城主天草越前正を攻め滅ぼし、島津領としましたが、甥の出水領主島津義虎に同年旧7月8日、出水城で謀殺されました。その後、長島全土に悪疫が流行したので、島民はこれを忠兼のたたりとして、その霊を慰めるために、若宮神社に忠兼の御霊を祀り、毎年旧暦7月8日に大祭をして、踊りを奉納するようになりました。



⑥